

～自己評価活動を通して～

松任市立東明小学校 中野 淳子

・主題設定の理由

「情報活用の実践力」は小学校では、総合的な学習の時間をはじめ各教科の様々な体験活動を通して、育成することが基本とされている。単に繰り返すだけでなく、自分の情報活用を評価、改善することによって、実践力は高まっていく(図1)。



図1 情報活用の実践力育成のイメージ

しかし、自己評価活動を発達段階に応じて、いつ、どのように、どのような場面で行うことが効果的なのかははっきりしない。そこで、自己評価活動を通して、情報活用の実践力を育成する際の手立てや留意点を明らかにしたいと考えた。

・研究の方法と内容

本研究の授業実践は東明小学校3年生を対象に行った。

- (1) 国語科単元「夏休みの思い出スピーチ」、「東明100人インタビュー」における児童の情報活用や自己評価活動の様子から、自己評価活動を通して情報活用の実践力を育成する際の手立てや留意点を検討した。
- (2) (1)の実践から得られた手立てと留意点を国語科単元「とっておき動物パンフレット」の授業設計に生かし、適用性があるかどうか考察した。

考察の結果、以下のような手立てをとり以下の点に留意して授業設計を行うことが自己評価活動を通して情報活用の実践力を育成するためには効果的であると分かった。

情報活用の具体的イメージを児童に持たせるこ

とによって、児童自身が自分でめあてを持って、それを基に振り返り、工夫・改善を図ることができた。具体的イメージを持たせる手立ては、以下3点である。

- ・ 表現のめあてとなる具体的な見本を提示する。
- ・ 少人数のグループや年齢や地域の異なる人に伝える場や課題を設定する。
- ・ 伝える目的や願いが明確になる課題やワークシートを活用する。

自己評価に他者・相互による評価を組み合わせることによって、情報活用の表現の内容や方法を児童自身に気づかせ、工夫・改善を図ることができた。特に3年生の場合は内容の評価については、指導者が具体的な個所に質問・アドバイスをを行うことが効果的だった。

情報活用の表現の形成的評価の場面では、友だちへのアドバイスを中心に、総括的評価の場面では友だちの良さを見つける相互評価を行うことによって、小学校3年生では、表現の工夫・改善を図ることができた。しかし、その際には、評価によって、表現内容を高めることよりも、自己評価や相互や他者からのアドバイスが役立ったという実感を大事にし、評価活動の態度形成に留意することが重要だと分かった。

- (3) 実践の結果を踏まえて、自己評価活動と情報活用の実践力の育成の目標系統表を作成した。

・研究のまとめと今後の課題

小学校3年生では、自己評価の態度形成に重点をおきながら、具体的な情報活用のイメージを児童に持たせ、相互評価他者評価を組み合わせることによって、自己評価活動を通して「情報活用の実践力」を育成することができた。

今後は、今年度作成した目標の系統表を見直しながら実践を行っていきたい。